

水温5度上昇に豪のサンゴ適応 東大が発見

2014/6/23 23:32 | 日本経済新聞 電子版

東京大学の横山祐典准教授らは産業技術総合研究所などと共同で、最後の氷期から約1万年間に海水温がセ氏5度ほど上昇し、それにサンゴが適応していたことを突き止めた。オーストラリアにある世界最大のサンゴ礁、グレートバリアリーフの沖合で掘削して取り出したサンゴの化石を詳しく調べることでわかった。

サンゴはこれまで考えられていたよりも海水温の上昇に強かった可能性がある。ただ、今後100年で海水温は2～3度上昇すると予想されており、サンゴがこのスピードに適応できるかはわからないという。今後、メキシコ湾沖やハワイ沖でも同様の調査をする。

北半球が一年中氷に覆われる寒冷期を氷期と呼ぶ。サンゴの化石に含まれるストロンチウムを分析した。最後の氷期の中で最も寒かったのが約2万年前で、その後の1万間で5度ほど上昇したとわかった。

NIKKEI Copyright © 2014 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。